

分野:生命科学・医学系

キーワード: 胎児治療、胎児手術、脊髄髄膜瘤、先進医療、クラウドファンディング

難病「脊髄髄膜瘤」の胎児手術が先進医療に認定 —患者家族支援のためにクラウドファンディング開始！—

【記者発表:3/4(火)10:30～ @医学部附属病院(吹田キャンパス)】
【クラウドファンディング:3/4～ 開始】

【本記者会見のポイント】

- ★ 母体を介した胎児脊髄髄膜瘤手術が、2月6日に厚生労働省・先進医療会議で先進医療に認められました。
- ★ 胎児脊髄髄膜瘤手術が3月1日から先進医療として実施できるようになりました。
- ★ 患者家族支援のために、クラウドファンディングを開始します。

❖ 概要

大阪大学大学院医学系研究科 遠藤誠之 教授らを中心とする大阪大学医学部附属病院胎児診断治療センター、国立成育医療研究センター胎児診療科の共同研究グループが2021年4月から2025年2月までに10件実施した、**妊娠中に脊髄髄膜瘤※¹と診断された胎児に対する先進的な胎児手術(母体開腹・子宮開放胎児脊髄髄膜瘤閉鎖術※²(図))**について、**3月1日から先進医療※³として実施できることが決定しました。**これは、脊髄髄膜瘤胎児手術が革新的でありながら、一定の安全性・有効性が確認されていることを示すとともに、将来的な標準治療へ向けた重要な橋渡しとなる可能性を示唆するものです。

これにあわせて、大阪大学医学部附属病院では、脊髄髄膜瘤胎児手術を受ける患者家族の経済的なサポートをするためのクラウドファンディングを開始します。

本件について、3月4日(火)10時30分から大阪大学医学部附属病院(吹田キャンパス)にて記者発表を行います。是非ともご取材くださいますよう、よろしくお願いいたします。

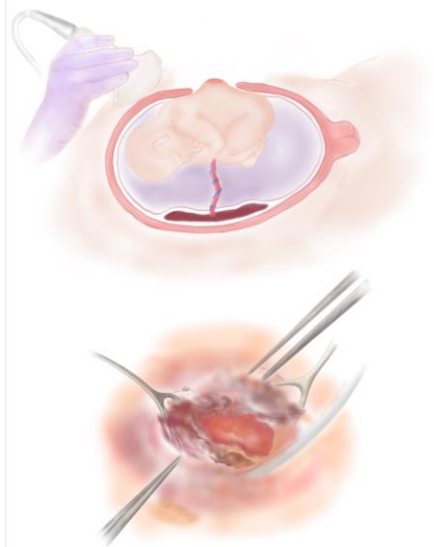


図 胎児手術の概略図

子宮内の胎児に対して、母体の全身麻酔下に開腹し、妊娠子宮を露出した後、子宮の一部を切開して胎児の脊髄髄膜瘤を閉鎖しました。その後胎児を子宮内に戻して妊娠を継続させました。

❖ 脊髄髄膜瘤胎児手術について

胎児脊髄髄膜瘤に対して、神経障害が軽度である妊娠中に治療をする「胎児脊髄髄膜瘤閉鎖術」は、米国で開発されました。現在、海外の主要な胎児治療実施施設では標準治療の一つの選択肢として実施されています。しかし、日本においては、妊娠早期での診断率が低いこと、母体に対して最小限の侵襲で行う事を目標に

Press Release

していること、高度な周術期管理を要し、かつ技術的に難しいことなどから、これまで実施されていませんでした。

遠藤教授らの胎児診断治療センターでは、AMED 日本医療研究開発機構 難治性疾患実用化研究事業からの研究資金提供を受けて、妊娠 26 週未満で診断された脊髄髄膜瘤の胎児に対して母体開腹・子宮開放胎児髄膜瘤閉鎖術をこれまでに 10 症例実施しました。これにより、当該患者さんはキアリ II 型奇形が改善し、下肢運動機能が改善し、生涯にわたる神経障害を軽減することが見込まれます。また、脳室腹腔シャントを必要とする患者さんの割合が減少しました。

❖ 本治療が先進医療として認められたことの意義

先進医療とは、厚生労働省が安全性と有効性を一定程度認めた最先端の医療技術です。これは、まだ公的医療保険の対象ではないものの、将来的に標準治療として確立される可能性があることを意味します。

今回、脊髄髄膜瘤胎児手術が先進医療として認められたことにより、将来的に胎児期における脊髄髄膜瘤治療が日本での治療選択肢の一つとして確立され、胎児の生後のクオリティーオブライフの向上に寄与するとともに、同様の診断を受けた他の胎児・家族への希望となることが期待されます。

❖ クラウドファンディングについて

今回、脊髄髄膜瘤胎児手術が先進医療に認められたことで、患者家族は先進技術(胎児手術)の部分だけ自費負担し、その他の部分は保険適用されることになります。これは大きな一歩ですが、それでも患者家族にとって負担は小さくありません。経済的な理由で胎児手術を受けることを断念する患者家族が 1 人でも生まれないように、患者家族への脊髄髄膜瘤胎児手術の先進技術料および通院にかかる交通費等のサポートを行いたいと考えています。クラウドファンディングでご寄付を募り、患者家族らをサポートすることを目指します。

<クラウドファンディング詳細>

お母さんのおなかの中で難病の手術を。胎児手術が選択できる未来へ挑む

URL : <https://readyfor.jp/projects/fetalMMCsurgery>

目標金額: 第一目標 1000 万円、第二目標 2000 万円

募集期間: 2025 年 3 月 4 日(火) 9 時～2025 年 4 月 30 日(水) 23 時

資金使途: 患者家族への脊髄髄膜瘤胎児手術の先進技術料および通院にかかる交通費等のサポート

形式: All-or-Nothing 方式 / 寄付金控除型

❖ 用語説明

※1 脊髄髄膜瘤

脊髄髄膜瘤とは、脊髄の発生で生じる病態で、腰部や仙尾部で皮膚や骨が正中で閉じなかったために、脊髄が体表で露出している先天性疾患です。そのために、キアリ II 型奇形と呼ばれる小脳虫部の一部、延髄などが下垂してしまう病態や、水頭症と呼ばれる側脳室に脳脊髄液が貯留する病態を呈する他、下肢、膀胱、直腸肛門をつかさどる神経機能が低下します。水頭症治療として脳室腹腔シャントを高率に必要とするほか、下肢運動機能、膀胱直腸障害など生涯にわたる症状を呈します。

※2 母体開腹・子宮開放胎児脊髄髄膜瘤閉鎖術

母親のおなかを開けて、妊娠している子宮を露出し、子宮の一部を切開して、子宮内の胎児の背中を一

Press Release

部露出し、脊髄髄膜瘤を閉じる手術を行います。手術後は、胎児を子宮内に戻して妊娠を継続します。

※3 先進医療

先進医療とは、厚生労働省が安全性と有効性を一定程度認めた最先端の医療技術です。これは、まだ公的医療保険の対象ではないものの、将来的に標準治療として確立される可能性があることを意味します。先進医療に認められると、先進技術の部分だけ自費負担し、その他の部分は保険適用されるため、患者の経済的負担が軽減されます。

Press Release

❖ 記者発表のお知らせ

本件に関して、3月4日(火)10時30分から大阪大学医学部附属病院共通棟3階中会議室(吹田キャンパス)にて記者発表を行います。**是非とも取材方よろしくお願い申し上げます。**

※会場設営の関係上、2月28日(金)17時までに別紙取材連絡票を、FAXまたはEmailで送付願います。

発表者:

大阪大学医学部附属病院 胎児診断治療センター副センター長 遠藤 誠之(えんどう まさゆき)

大阪大学医学部附属病院 小児成育外科 講師(病院教授) 渡邊 美穂(わたなべ みほ)

大阪大学医学部附属病院 脳神経外科 助教 横田 千里(よこた ちさと)

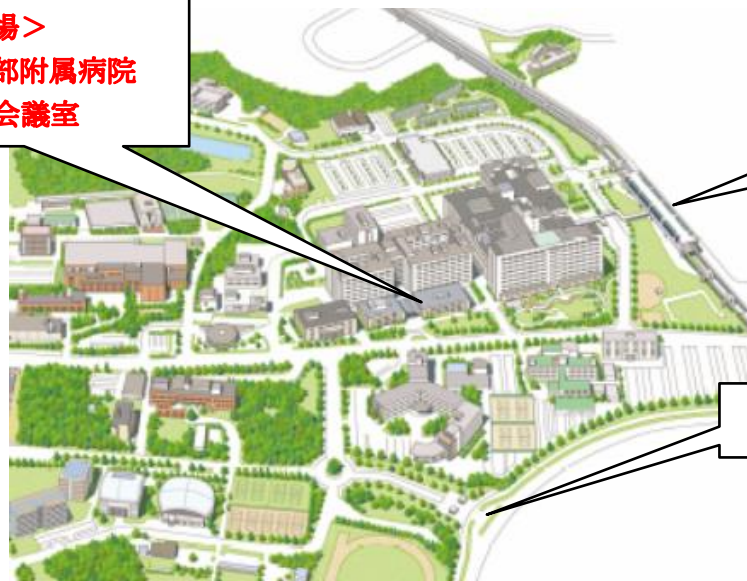
スケジュール:10時30分~11時30分

本治療成果概要報告(スライドを用いてご説明します。)

その後、質疑応答

<記者発表会場>

大阪大学医学部附属病院
共通棟3階中会議室



大阪モノレール
阪大病院前

吹田キャンパス正門

大阪大学 医学部附属病院総務課広報評価係 行
(FAX:06-6879-5019、E-mail:ibyou-soumu-kouhyo@office.osaka-u.ac.jp)

**難病「脊髄髄膜瘤」の胎児手術が先進医療に認定
—家族支援のためにクラウドファンディング開始!—**

【記者発表:3月4日(火)10時半~@医学部附属病院(吹田キャンパス)】

取材連絡票

2月28日(金)17時までにご返送をお願いいたします。

氏 名	その他 名
貴 社 名	
テレビカメラ	あり なし (いずれかに○)
連 絡 先	